



いきいき和歌山がんサポート理事長 谷野裕一

がんになっても いきいきと!

100 コラム100回目を迎えて

療のこと、和歌山のことなどを書かせていただきます」と書いています。2010年にNPOを始め、がん対策のことで沖繩に行ったり、がんの在宅療養のことに地域の医療者と一緒に取り組んでいたりしていた頃。那賀病院の乳腺外科を2人でやっていたのが1人になって、当直は毎週、そんな中、帯状疱疹になったり、前年の暮れには急性胆嚢炎で入院したりしました。今から考えると怖いですね。

しかし、この記事のすぐ後の6月に、米国の学会に行った帰りの空港で、慶應大学時の留学の時の10年上の先生に声を掛けられて、翌年4月に北里大学に行くことになりました。私の人生でも激動の頃でした。4年間北里大学、その後の5年間は神戸大学でした。私は、医師の中でもいろんな経験をしてきている方です。患者さんや家族でがんについての活動をし

ている人のほとんどが知り合いです。ドラッグラグなどの日本の状況も分かります。この経験を和歌山でも生かしていきたいと思えます。3月で59歳になります。いい歳になり、体力の衰えを感じます。スポーツでは、年長で体力が低下してきている選手でも、試合の組み立て、全体の把握、チームワーク、精神状態のことなどは優れています。医療でも、このタイプの乳がんの診断には注意が必要とか、ここに気を付けて準備しておかないと対応できない手術など、医療では経験の生きることがたくさんあります。また、がん治療、臨床試験や、患者さんたちとの活動など、チームワークが必要なことは世の中にたくさんあります。チームづくりもたくさんやってきたので、そのノウハウが生かせる場面がたくさんあります。こ

2012年5月の最初の記事をパソコンの中で見つけました。今回で1000回、この4月で丸10年ですね。最初の記事には「がんのこと、病気のこと、医

れからもみんなに役立つことをやっていくたらしめたいです。

この100回目の記事は、日曜の朝7時に喫茶店にパソコンを持ってきて、一人黙々と書いています。この時間は楽しいです。今まで二度もないですが、書いてほしいこのリンクエストもあれば楽しいかもかもしれませんね。「谷野裕一のサイト」と検索すると私のサイトが出てきます。お暇な時に見てください。これからもよろしくお願いたします。200回記念記事はあるのかなと、ふと思いましたが、その頃の世の中はどうなっているんでしょうか?